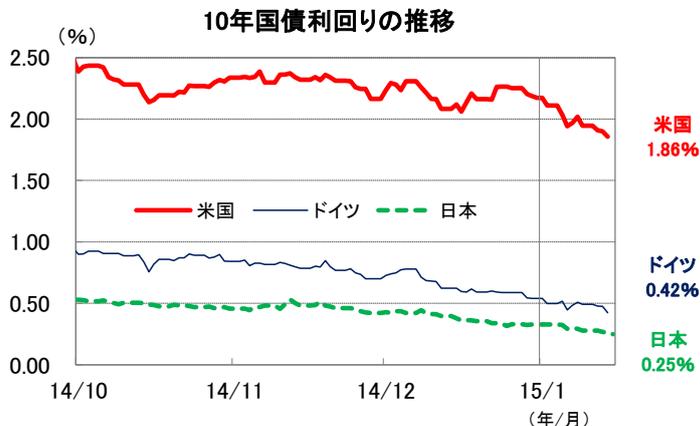


今日のトピック 足元の世界の市場動向

リスク回避の後退には原油価格がカギ

ポイント1 主要国の国債利回りが低下 株価下落、ユーロ安、円高も進行

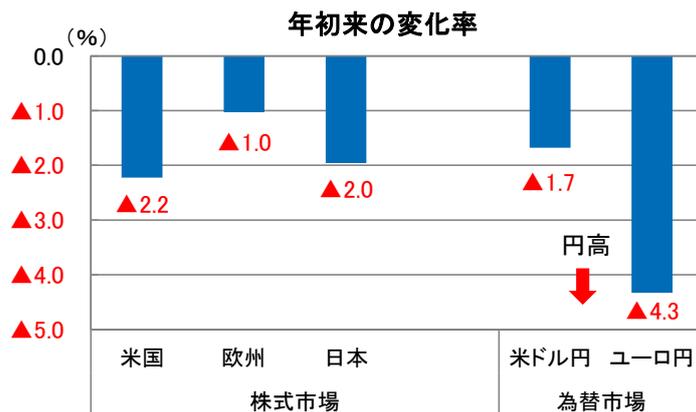
- 米国の10年国債利回りは、昨年12月末から直近(1月14日)まで0.32%低下しました。欧州や日本などでも、国債利回りの低下傾向が続いています。
- 国債利回り低下の主因としては、昨年から継続している原油価格の下落やギリシャの政局不安を受けた投資家のリスク回避姿勢、欧州中央銀行(ECB)の量的金融緩和策の追加観測などが挙げられます。
- こうした材料を受けて、株式市場の下落や、為替市場でのユーロ安や円高なども進んでいます。



(注) データは2014年10月1日～2015年1月14日(日本は15日15時)。
表示数値は2015年1月14日(日本は15日15時)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 米国利上げに後ずれの可能性 経済指標の下振れなどが影響

- 年初来の国債利回り低下には、米国の12月の雇用統計で賃金の伸びが下振れたことも要因になりました。また、製造業・非製造業ISM指数や同月の小売売上高が市場予想を下回ったことなども影響したと見られます。
- 投資家は、景気見通しにやや不透明感が増していることや、利上げ開始時期の後ずれの可能性などに注目しつつあると思われます。



(注) 米国株式はNYダウ、日本は日経平均、欧州はユーロストックス。
米国・欧州株式の変化率は、2014年12月31日から1月14日まで。
日本株式の変化率は、12月30日から1月15日(日本時間15時)まで。
為替市場の変化率は、12月31日から1月15日(日本時間15時)まで。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 世界経済の不透明感払しょくにつれ、リスク回避後退へ

- 原油価格(WTI)は、一時1バレル=45ドルを下回った後、反発しています。米国シェールオイルの生産量が減少する兆しも見られ、需給は改善する見込みです。原油価格が落ち着き、原油を産出する新興国の景気が回復する見通しが立てば、世界経済の不透明感が薄らぎ、投資家がリスク回避姿勢を緩めると見られます。
- 一方、ECBと日本の追加金融緩和期待が根強いことや、米国で賃金の伸びが低く抑えられていることなどから、主要国の国債利回りは低水準が続くと思われます。低金利の継続と世界経済の回復は、株式などのリスク資産にとって好材料と考えられます。

ここも チェック!

2015年01月13日 米国の雇用統計(2014年12月)
2015年01月09日 「ECB理事会」で国債購入決定か(ユーロ圏)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。